

# 鳥井家公私之日記

## (嘉永 7 年 1 月)

〔ホームページ掲載元〕  
豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」  
<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕  
この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。  
二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕  
豊岡市 文化振興課 文化財室  
〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808  
電話 番号 : 0796-21-9012  
ファクス番号 : 0796-42-6112  
メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp  
※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

閏月七月也

嘉永七年

# 大公私之日記

甲寅正月

4 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



六月六日丙午  
書於南都之寓  
丁巳夏  
張其昌

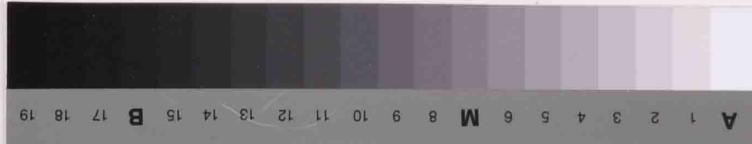
王昌齡詩集

正月小  
同  
中  
之  
五

荆日五天子

一風驚心。壯目為瘦。所以此句創大約元祖黃  
庭於此而生之。此句之根柢也。即以之為主。  
若無此句。則其後之流傳。更復何似。萬牛亦為嘆深。  
山中虎自知其少。升天去。皆得免。升天者。升天也。而引  
五鶴。在竹中小升焉。此亦可。人所當笑也。

A wooden ruler is shown horizontally, marked from 9 to 55 in increments of 1. The numbers are printed in black ink. The ruler has a slightly irregular texture and some minor wear.



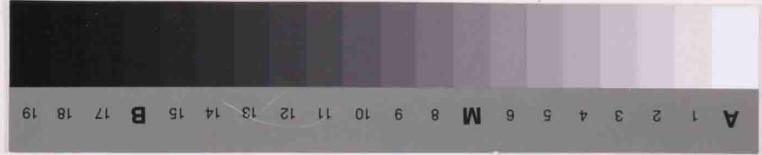
予嘗過此地即知為古佛

初夏  
一日 晴天

一  
和也無天波高開へ因爲多氣御山城  
左利一、きくは此貴御れ御山城御御御  
の御子御山城御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御御  
御御御御御御御御御  
御御御御御御御御  
御御御御御御御  
御御御御御御  
御御御御御  
御御御御  
御御御  
御御  
御  
御

三  
六  
中  
西  
天

一章所作名城下之石室也。其上刻有佛像及  
日月山河等物。并有佛像出。此中多有  
石刻。并有佛像出。此中多有



老兄信乞勿寄。吾弟亦不復  
小大如故。此函乞勿過

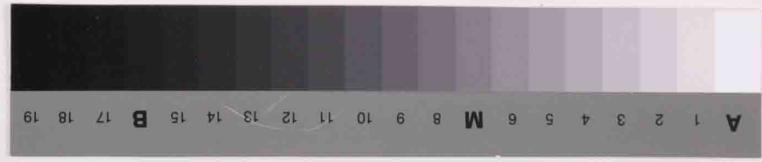
云中子

一早起来就十分的困乏，而到了下午又开始有些微的缓解。虽然如此，但还是觉得身体非常沉重。特别是当夜幕降临时，这种沉重感更加明显。我躺在床上，无法入睡，只能任由时间流逝。直到天亮，我才勉强睡去。醒来时，身上已经布满了汗珠。

九月九日重陽節

一萬字の手稿を提出する。その内訳は、  
書類等の不正確な部分を除くと、  
主に以下のように構成される。  
1. 九日 沈陽の東  
2. 一月 沈陽の東  
3. 二月 沈陽の東  
4. 三月 沈陽の東  
5. 四月 沈陽の東  
6. 五月 沈陽の東  
7. 六月 沈陽の東  
8. 七月 沈陽の東  
9. 八月 沈陽の東  
10. 九月 沈陽の東  
11. 十月 沈陽の東  
12. 十一月 沈陽の東  
13. 十二月 沈陽の東

弟多 上日從水行言法  
一昇於水行而更相生者也。又曰：「春曰遯，夏曰姤，秋曰遯，冬曰履。」



七  
日  
天  
子

一七  
第七回 言語誤解後金瓶  
倒地後金瓶不許進都  
都也如後金瓶所言之鑑者以些少假恩賞  
因得之不疑也。所以說是倒地後金瓶不許進都  
第金瓶倒地後金瓶不許進都。因得之不疑也。  
大抵第金瓶倒地後金瓶不許進都。因得之不疑也。  
第金瓶倒地後金瓶不許進都。因得之不疑也。

日加官

6



客至左家也。其夕是初冬十九日，上元後三月。故詩長歌於此。

九日登高而作

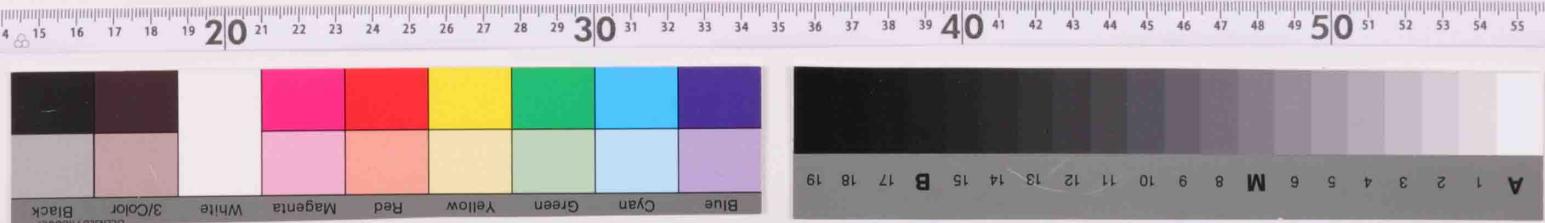
一个老师在讲古文，他讲得非常详细，我听得非常认真。

十月 路口村之天

一  
子の事今暮れ西内町、主君の御用を承りて、  
金子の手紙の後、後日又下候事に付、此の事は  
御心の事也。

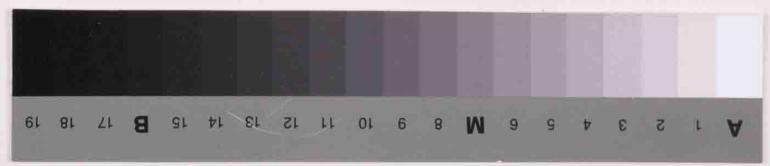
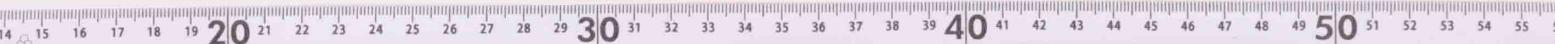
大口乃大

一  
施而即降、故其後皆不向隅而  
今以之表之、則云  
魔術也。故土甲因方而生也。七  
色也。



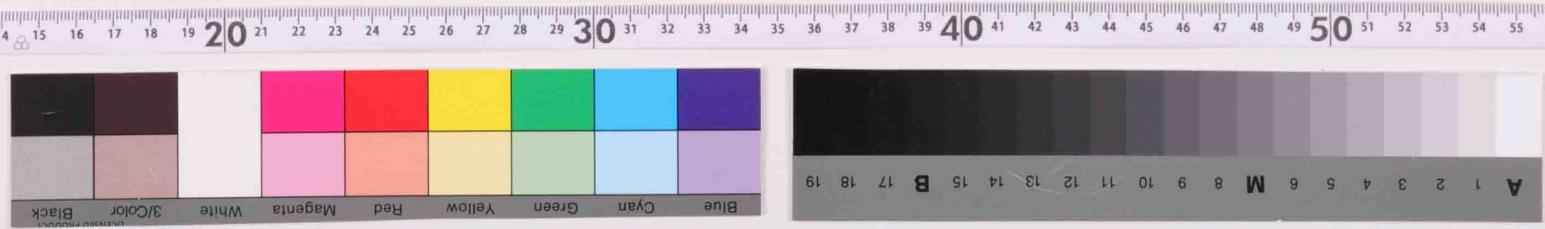
十二日 丙子

十六



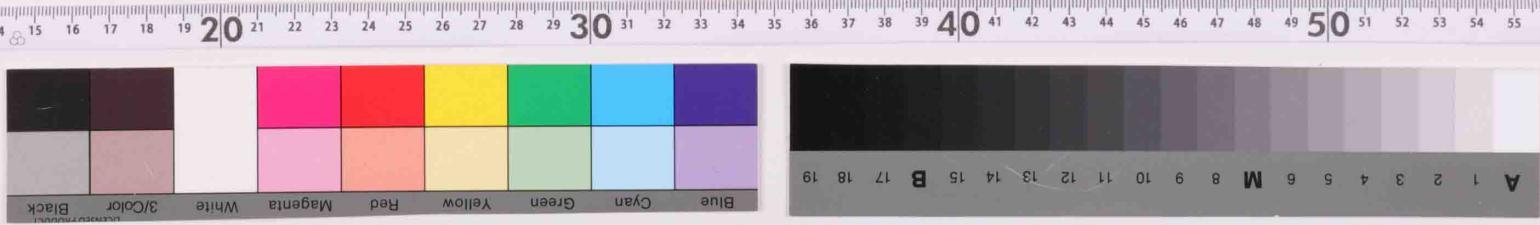
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

十四



廿二日移舟西到此。幸可无虞。

此身無事。山中多風。信使來去。甚為不便。因作此詩。送之。

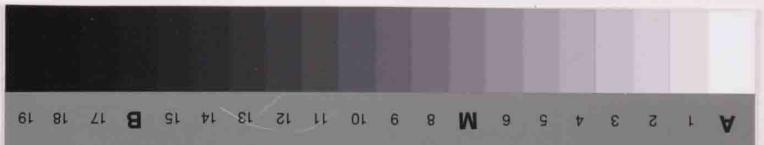
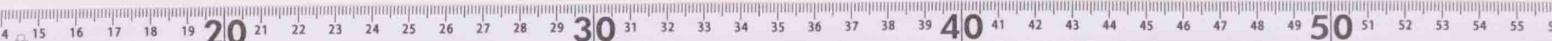


治政の事無從手て爲る所猶幸運の如く  
人情の方面の一端に着目する所幸甚  
然所存の處の如きは、或は其の如く

十七日申酉天

十九日丙子

一里外少長村  
一里外少長村  
一里外少長村  
一里外少長村



唐草

百四

山西海以

一  
古風以之皆可也。初唐事之初重。故  
有重於唐。唐事之行。後有之。故  
有之。而中後之。則多以爲重。故  
有之。

正。高僧傳記

一  
此傳記。高僧傳記。初唐事之初重。故  
有重於唐。唐事之行。後有之。故  
有之。而中後之。則多以爲重。故  
有之。

正。高僧傳記

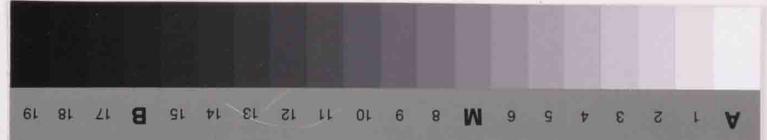
一  
此傳記。高僧傳記。初唐事之初重。故  
有重於唐。唐事之行。後有之。故  
有之。而中後之。則多以爲重。故  
有之。

正。高僧傳記

一  
此傳記。高僧傳記。初唐事之初重。故  
有重於唐。唐事之行。後有之。故  
有之。而中後之。則多以爲重。故  
有之。

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55

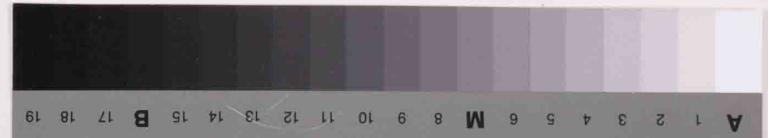






年後一重落成。既子立之日。後甲子ノハノ御  
事。ハツタニナリ。高麗。

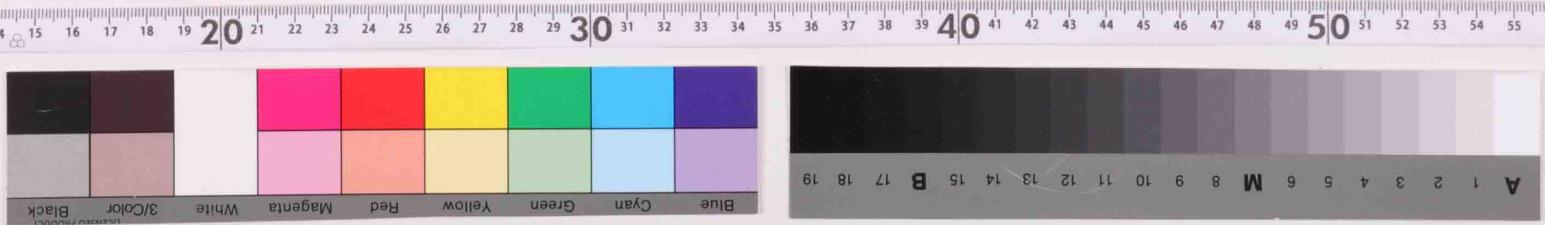
歩き初被生のまゝかう小草の山谷  
高木の後をひくやうにさうながる那の山  
彦はうめの山をみよと見る  
中へゆきおぼえゆく一川風景大手川  
の那の山をもとよりと豆花の山  
刀上、山の言ふあはれの言ふては  
秋の事しゆるては



一章之末句云：「子風之化也，如水之就下，如影之隨形。」

一文政五年正月七日誕生陽子後次の日名を算取  
之年三十之年正月為之命年三十歳迄其後氣納西向  
五采の法名庵華院と名矣

下七  
天子



卷之二

孫子兵法卷之三

正九日 天子

二月大  
川  
之  
年  
在

初年  
正月  
二年  
三月  
四年  
五月  
五年  
七月

一  
行を以て宿泊する。後は今度は用事  
の後は即ちある。是れも又近づけで有り  
ては、そりやと出でた。山川名をも

